青少年赤十字指導情報

Junior Red Cross Information 2024

No. 172

今こそ青少年赤十字！ 100年以上続く魅力を紹介

［特集］

ゼロから学ぶ青少年赤十字活動
深掘り！ 青少年赤十字活動

世界に広がる赤十字の仲間たちと交流！
国際交流事業

青少年赤十字は教師にとっても学びの場となる!?
現役の先生による対談

青少年赤十字への加盟登録のご希望は
全国の都道府県支部にご連絡ください。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
人間を救うのは、人間だ。

Contents

Junior Red Cross Information 2024

青少年赤十字指導情報 No.172

02 Special Message　巻頭インタビュー
日本赤十字社公式アンバサダー上白石萌音さん

03 ゼロから学ぶ青少年赤十字活動

05 学校教育の現場における事例を紹介
深堀り！青少年赤十字活動紹介

11 子どもの主体性を高める夏の研修
リーダーシップ・トレーニング・センターin 香川県

13 世界に広がる赤十字の仲間たちと交流！
令和５年度青少年赤十字国際交流事業報告

15 教え子×指導者対談
子どもたちだけでなく教師も成長できる
青少年赤十字での学び

17 児童・生徒への指導に活用できる教材を紹介！
教育現場で使える青少年赤十字教材・資料

05

13

15

1922年から100年以上
学校教育の場で展開される青少年赤十字。
本号では主体的な子どもたちを育成する
その活動や手法、魅力をお伝えします。

Junior Red Cross
Information 2024
2024.4.1 No.172
青少年赤十字指導情報

※本誌の内容は、原則として2024年3月31日時点のものです。

Special Message
巻頭インタビュー

日本赤十字社公式
アンバサダー

上白石 萌音さん

日本赤十字社のアンバサダーとして、TVCMをはじめポスターやリーフレット、キャンペーン特設サイト等で活動を広く伝えている、俳優の上白石萌音さんよりメッセージをいただきました。

どのような経緯で上白石さんと日本赤十字社との間につながりが生まれたのでしょうか？

日本赤十字社さんとのご縁の始まりは2022年、CMのナレーションをさせていただいたことでした。まだまだコロナが猛威を振るっていて、世の中も自分の心も停滞してしまったように感じていたところに、立ち止まらず動き続けている赤十字の皆さんの存在を知りました。とても心動かされ、励まされたことを覚えています。

アンバサダーとして実際に日本赤十字社の活動に関わってみて気づかれたことはありますか？

「赤十字は、動いてる！ SAVE365」のTVCMを撮影する際、赤十字救急法の普及活動の現場や大規模災害に備えた備蓄倉庫、命を守る防災セミナーなどを見学しました。赤十字は災害が起きたときだけではなく、人間の命と健康、尊厳を守るために365日動き続けているということを知ったと同時に「赤十字が365日活動するには、私たちの力が必要なんだ」ということにも気づきました。

日々活動している青少年赤十字メンバーへ向けてメッセージをお願いします！

かけがえのない日常を支えるために、赤十字の一員として活動してくださっている青少年赤十字メンバーの皆さんを心から応援しています。皆さんの思いや活動をもっと広く知っていただき、多くの方が赤十字の活動に勇気づけられることを願って、私もアンバサダーとしてがんばっていきます。

青少年赤十字メンバーの皆さんを心から応援しています！

Profile

上白石萌音（かみしらいし・もね）
映画『舞妓はレディ』『君の名は。』、ドラマ『カムカムエヴリバディ』、舞台『千と千尋の神隠し』などに出演。歌手やナレーター、執筆業などでも幅広く活動。

青少年赤十字は
気づき、考え、実行することができる子どもを育てます。

赤十字は、アンリー・デュナン（スイス人：第一回ノーベル平和賞受賞者）が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、世界191の国と地域に広がる赤十字・赤新月社のネットワークを活かして活動する組織です。そのうちの一社である日本赤十字社が展開する青少年赤十字（Junior Red Cross：通称JRC）は、学校教育の場に組織され、学校・幼稚園の先生や保育所の保育士等が指導者となって、さまざまな活動の実践を通しながら全国で思いやりの心を持った子どもたちを育てています。

また、同じ理想を掲げ、実践している国内の学校やメンバー間はもちろん、海外の姉妹社の青少年赤十字メンバー（Red Cross Youth：通称RCY）同士の人、情報、物（国際親善アルバムなど）の交流も盛んに行われています。

加盟校数：1万4,438校　　メンバー数：349万4,155人

はじまり

第一次世界大戦時、カナダ、アメリカ、オーストラリア、イタリアの学校の生徒と先生は、戦争で苦しむヨーロッパの人々をなぐさめ励ますため、赤十字を通じて手紙や包帯、被服、慰問品などを届けました。これがきっかけとなり、青少年赤十字が誕生しました。

目的

赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活での実践活動を通じて児童・生徒が生命と健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的としています。

実践目標と態度目標

青少年赤十字では、その目的を達成するために具体的な目標を提示しています。それが「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」という３つの実践目標です。また、児童、生徒が自主的で自律した生活態度を養うために「気づき」「考え」「実行する」という態度目標を掲げています。

実践目標

健康・安全
生命と健康を大切にする

奉仕
人間として社会のため、人のために尽くす責任を自覚し、実行する

国際理解・親善
広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う

態度目標

活動の特徴

1 学習指導要領「生きる力」につながっています

「生きる力」は2008年に、文部科学省が小・中学校の学習指導要領を改訂する際に掲げた理念です。変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の知・徳・体をバランスよく育てることが重要としています。青少年赤十字が推進する、子どもたちが自主的で自律した考え方を育むための態度、「気づき、考え、実行する」は、この「生きる力」と通じるところが多くあります。

2 活動は学校の裁量で自由に行えます

青少年赤十字が他の青少年育成団体と異なる点は、その組織と活動が学校長や園長の理解のもと、先生や保育士を指導者として、学校や幼稚園・保育園の中で展開されていることです。
また、活動は学校の裁量で自由に行なうことができ、「これをしなければならない」といった義務のようなものはありません。

3 SDGsの目標に関連しています

国際社会全体の開発目標であるSDGsの策定には、国際赤十字も深く関与しており、青少年赤十字の実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」は、SDGsと深く関連しています。

どんなことをやっているの？

活動は学校教育のあらゆる機会の場を捉えて、意図的、継続的に計画。青少年赤十字の３つの実践目標を踏まえ、毎日の生活の中で日常的に心がけて実践されるような活動を大切にしています。

●年間活動計画事例

活動	目標	活動目標・内容
朝の健康観察	健康	朝の会で互いに健康状態を確かめることにより、互いを認め合い、健康的な学校生活を送ろうとする心情を高める。
花づくり運動	奉仕	プランターに作った花を地域の公共施設に飾る。
V·S（ボランタリー・サービス※）活動	奉仕	生徒会が企画したボランティア活動に応じた有志が集まり、清掃活動等を行う。
生徒会新聞・委員会だより	奉仕	生徒会新聞で青少年赤十字に関する記事を掲載したり、委員会だよりで、実際の活動を紹介することにより青少年赤十字の活動の理解を深める。
あいさつ運動	親善	校門で笑顔であいさつを行う。

※ニーズを発見し、自分の利益を求めない自発的な行動によって、問題解決を図ろうとすること。
「気づき、考え、実行する」の考え方をベースに「ニーズの発見」「課題（問題）解決のための準備・計画案の作成」「実行」「反省」の流れで行われます。

次ページからはさらに詳しい実践例を紹介！

深堀り！青少年赤十字活動紹介
～実践・態度目標に基づく加盟校の事例紹介～

青少年赤十字を学校に取り入れることで、たくさんの先生が子どもたちの成長、変化を感じています。ここでは、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の実践目標に基づいたさまざまな校種での学校の取り組みを紹介します！

実践目標

1 健康・安全

生命と健康を大切にする

赤十字が作る防災教材を活用した防災学習や避難訓練、出前授業によるAEDなどの一次救命処置やとっさの手当て、着衣泳の学習などが行われています。

事例　千葉県　船橋市立坪井中学校

道徳、総合の学習で防災学習！ 生徒たちの自助の防災意識を高める

本校では、日本赤十字社千葉県支部指定研究推進校として3年間、青少年赤十字の研究を行いました。道徳の時間、総合的な学習の時間、特別活動の時間において「防災学習」を中心とした実践を積み重ねました。

教材として、日本赤十字社で作成された「まもるいのち　ひろめるぼうさい」を採用し、実践的な防災意識・態度の学びを深め、主体的に考え、積極的、協働的に行動する態度を育成することを目指しました。

3年間の青少年赤十字に関する学習を通して、生徒たちは「気づき、考え、実行する」という目標を意識した行動ができるようになったと感じています。避難生活の大変さや「共助することの大切さ」について身をもって理解し、災害について主体的にかつ、中学生としてできることは何かを意識し行動しようという考えが根付く、良い機会となりました。

実践目標

2 奉仕

人間として社会のため、人のために尽くす責任を自覚し、実行する

地域での清掃活動やあいさつ活動、高齢者体験、福祉施設への交流訪問、赤十字活動資金や義援金などの募金活動などが行われています。また、全国で85万人いる赤十字奉仕団（ボランティア）と連携した炊き出し訓練など、赤十字の地域人材を活用した活動などもあります。

事例　岐阜県　揖斐川町立谷汲中学校

地域活動の連携で奉仕の力を養う活動

学校目標である「変化に立ち向かい、自らの手で未来社会を逞しく想像できる人材の育成を目指す」を具現化するため、主体性を育む教育活動を実践しています。地元開催のサンサンフリーマーケットでは、赤十字が支援を続けているウクライナへの募金活動をはじめ、地元の廃材で作ったおもちゃなどを販売。その他、中学2年生が小学２～５年生に算数の授業を行うなどの活動を通じて、相手を思いやって行動することの大切さを学べたようです。

今後も「やってみたい！」という生徒の思いを大切にし、地域との連携を図りつつ、できることを考え活動していきたいと思います。

事例　福岡県　朝倉市立蜷城小学校

60年以上続く清掃活動が県下初の農林水産大臣賞を受賞

本校では、青少年赤十字の精神「人道・博愛」「自他一如」を学校教育の基盤に据え「気づき、考え、実行する」という態度目標を学校教育の重点目標として取り組んでいます。

そして昨年、60年以上本校で続いているV・S（ボランタリー・サービス）活動が、県下初の農林水産大臣賞を受賞しました。これは、特に通学路のゴミを拾いながら登校する「V・S登校」、各自の気づきで行う校内外の「V・S清掃」が認められたものです。

子どもたちが先輩から伝統として受け継ぎ、当たり前のこととして行っている活動が全国規模で賞賛されたことに対して、驚きと喜びを抱くとともに、今後の活動意欲を高める機会となりました。

実践目標

3 国際理解・親善

広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う

世界191の国と地域に広がる赤十字のネットワークを通じて、世界が抱える諸問題を学び国際理解を深め、海外の仲間たちとの交流を通じた親善ができます。また、「子どもたちが自分たちのお小遣いの中から出せる金額で奉仕をする」ことを目的に平成16年より「青少年赤十字活動資金」（通称、1円玉募金）を活用した支援事業を実施しており、海外にいる同世代の子どもたちについて考えるきっかけを提供しています。

事例

東京都　日本赤十字社東京都支部

「ルワンダ子ども支援募金」の取り組み

小学生から留年・退学してしまうというルワンダの子どもたちの状況を改善するため、東京都内の加盟校が「ルワンダ子ども支援募金」に取り組みました。

令和４年度には、事前にルワンダについて学習した青年・学生赤十字奉仕団※の大学生が青少年赤十字加盟校で講演会を実施。「私たちには救う力がある」という現地の赤十字駐在員の言葉に励まされ、都内の35校（園）より、913,706円の募金が集まりました。

令和５年10月にはルワンダの子どもたちに学用品が届けられました。

※青年赤十字奉仕団：おおむね18～30歳の社会人や学生などで組織されたボランティアグループ。主に、献血推進活動や防災活動、東日本大震災で被災された方々への支援、HIV/エイズ予防啓発活動などに取り組んでいます。

青少年赤十字海外支援事業（IYCP）

～1円玉募金を活用した海外支援事業第２次３カ年事業～ 完了報告

平成29年からネパール（水と衛生）とバヌアツ（防災教育）を支援していた青少年赤十字海外支援事業が終了しました。新型コロナウイルス感染症の流行で予定通り事業が行えない時期もありましたが、現地の課題が解決できるよう、状況に合わせて計画を見直し支援を継続しました。1円玉募金にご協力いただいた皆さまへ、現地から感謝の声が届いています。

ネパール

持続可能な水と衛生環境を整備

どうして支援していたの？

上下水道整備が遅れているネパールでは、学校や地域の衛生改善を目指し、トイレの修繕や簡易水道や水タンク、ごみ箱の設置に加え、子どもたちに衛生の知識を伝え学んでもらうことによって、家庭やコミュニティの衛生環境を向上させる支援を行っています。

ありがとうの声

●青少年赤十字サークル 代表　ソフィアさん

以前はゴミが散らかってトイレは汚く、水道は１か所だけでした。今はゴミ箱がありトイレがきれいに修理され、手洗い場が追加されました。衛生に関連した研修、授業を受けることもでき、IYCPのおかげで学校の衛生環境が大きく向上しました。

●支援校　校長

IYCPは生徒の衛生習慣を変え、家庭や地域にも良い影響を与えてくれました。改善された学校環境を維持するべく、生徒は主体的に行動し、リーダーシップの向上にも役立っています。日本の子どもたちの募金に深く感謝します。

バヌアツ

子どもたちの防災意識を高める

どうして支援していたの？

バヌアツではサイクロンや津波、火山噴火などの自然災害が多発しています。子どもも地域の人も災害から自分で自分の命が守れるよう、学校のカリキュラムに防災教育を組み込み、避難訓練や救急法キットの配布等の支援をすることで、学校や地域の防災意識向上に貢献しています。

ありがとうの声

●バヌアツ赤十字社 ユース　レベッカさん

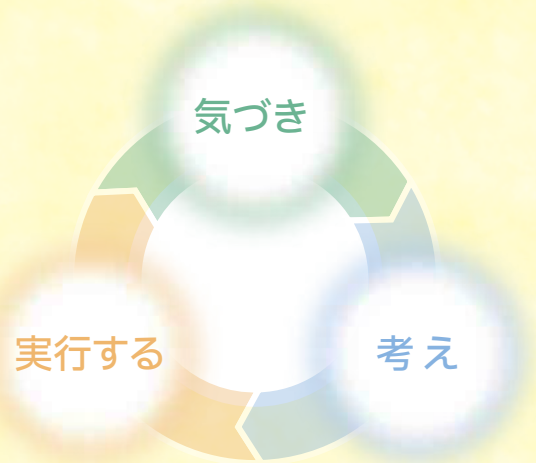
IYCPは私の人生をも変えてくれました。以前は災害への対応や救急法に無知で、公の場で話す自信もありませんでした。IYCPを通じ多くのことを学び、災害時の行動や救急法を身につけたおかげで、今はコミュニティのDRR（※）ファシリテーターとして得た知識を学校や地域で共有し、日々の防災啓発に尽力しています。1円玉募金による支援に感謝しています。

※DRR= Disaster Risk Reduction：災害リスク軽減
今後起きる災害への防災や、災害が起きた時の対応力（レジリエンス）を強化したりする取り組みのこと。

第３次事業紹介

１円玉募金を活用した青少年赤十字海外支援事業は、第３次事業の開始を予定しています！
引き続き皆さまからの１円玉募金を受け付けております。
いただいた募金は、支援国の青少年赤十字メンバーの教育や地域の課題解決のために活用させていただきます。

態度目標



青少年赤十字の100年以上の歴史で、さまざまな活動が実践されるなかで生まれた態度目標「気づき、考え、実行する」は、多くの指導者の共感を得ただけではなく、文部科学省が学習指導要領で育成を目指す資質・能力である思考力・判断力・表現力とも合致しています。
学校によっては、態度目標を学級経営、学校経営の指針として取り入れていることもあります。
ここでは、態度目標に基づいた学校の取り組みを紹介します！

事例　佐賀県　佐賀市立中川副小学校

学校全体で取り組む「気づき、考え、実行する」児童の育成

本校は、東に筑後川、南に有明海を望み、日本赤十字社の創始者である佐野常民の生誕地にある小学校です。学校目標は青少年赤十字の態度目標の「気づき、考え、実行する」を掲げ、日々の活動に取り組んでいます。

学校全体での取り組みは、青少年赤十字委員会活動をはじめ、V・S（ボランタリー・サービス）活動とふるさと交流活動があります。青少年赤十字委員会は登録式や募金活動、園児との交流など年間を通して活動しています。V・S活動では、始業前に花壇のお世話を当番の学年の児童が行い、年間を通して綺麗な花を目にすることができます。昼休みにも自分から草むしりをする姿を時々目にするときがあります。またふるさと交流活動では、保護者や地域の園児と地域のゴミ拾いや、佐野常民誕生碑の清掃を行っています。

「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」の館長さんにも来校していただき、博愛について講話を戴くなど、地域と連携して「気づき、考え、実行する」児童を育てています。

事例　岩手県　岩手県立盛岡聴覚支援学校

コロナ禍での「気づき、考え、実行する」青少年赤十字活動

本校は岩手県唯一の聴覚支援学校です。青少年赤十字には昭和60年10月に、県内の盲・聾・養護学校からの初の加盟校として加入しましたが、当時は今でいう特別支援学校の加盟はめずらしいものでした。

新型コロナウイルス感染症の影響により、人とのつながりも希薄になりつつあることから、どのような取り組みや支援が生徒たちにとって「気づき、考え、実行する」ことにつながるのかを研究することにしました。その一つが特別老人ホーム・カーサ南盛岡への奉仕・交流活動です。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、昨年度に続き利用者の方々との対面交流は難しいため、メッセージの贈呈や施設周辺のゴミ拾いを計画しました。長引くコロナ禍によって、現在の高等部の生徒のほとんどは利用者の方々との面識がありません。しかし「実際に会ったことはないけれど、自分たちと同じようにコロナの影響で、楽しみにしていた行事などがなくなり、残念な思いをしている人がいるのではないか」と考え、お互いの健康を願うメッセージや、コロナ禍の収束を願うメッセージなどを寄せ書きにして贈呈しました。

生徒の声

さまざまな理由で実際にお会いしての交流は難しいのは理解しています。お互いに大変だと思うので少しでもメッセージで元気を出してもらいたいです。

今年度も実際に会っての交流はできませんでしたが、メッセージを代わりに送ったことで、お互いの気持ちが通じたのではないかと思っています。

人の役に立つことは難しいと感じていました。何か大きな災害のボランティアのような活動をしなければ役に立たないと思っていましたが、メッセージを作成して、小さな活動でも誰かの役に立つかもしれないと感じました。

リーダーシップに学年は関係ない！

青少年赤十字 リーダーシップ・

自ら進んでグループの中で役割を持ち、時と場所や内容によって、ある時はリーダーになり、またある時は協力者の立場を取ることができるようになる、そのようなリーダーシップの取り方を青少年赤十字では目指しています。毎年夏に開催されるリーダーシップ・トレーニング・センター（通称：トレセン）では、集団生活と赤十字に関する知識・技術を集中的に学ぶ経験から、たくさんの子どもたちがリーダーシップの取り方を身につけ、成長しています。また、トレセンの運営にかかわる指導者も、成長する子どもたちの姿から普段の学校での指導に生きるたくさんのヒントを学んでいます。

香川県トレセン概要

期間：2023年8月4日（金）～6日（日）
場所：香川県立五色台少年自然センター
対象：小学生、中学生、高校生
参加者数：46名
指導者数：47名（賛助奉仕団含む）

生活の運営は児童・生徒の自主性に任せ合図はしない、必要な情報の伝達は掲示板で行う、V・S（ボランタリー・サービス）活動や先見※に積極的に取り組む、といった方針は全国共通であるものの、都道府県それぞれに運営の工夫があり、特徴があります。今回は小学校・中学校・高校すべての校種が一緒に参加する香川県の例を紹介。“なすことをもって学ぶ” 2泊3日の集団生活の活動体験を通して、自主性を養い、学校や地域社会のために自ら気づいて行動できる青少年の育成を目指し行われました。

※先見：先を見通した考えや行動をすること。赤十字では「いついかなる場合にもあらゆる状況に対処できるよう日頃から備えておく」ことと考えている。

3日間の活動の基盤となるホーム・ルームは、小学校・中学校・高校の校種に関係なく編成。校種を越えて共感できる課題を見つけるのは難しいですが、高校生だけでなく、時には小学生・中学生が主導して議論を繰り広げながら、最終日の活動計画発表（ワーク・ショップ）に向けて準備をしていきました。

TimeTable トレセンタイムテーブル

DAY1

- 9:00
- 10:30 開会式
- 10:30 オリエンテーションとアイスブレーキング
- 12:00 昼食
- 12:45 ホーム・ルーム
- 13:45 学習Ⅰ（防災教育や赤十字の話、献血など）
- 15:00 V・S
- 16:00 夕べのつどい
- 16:30 V・S
- 17:00 夕食
- 18:00 ホーム・ルーム
- 18:45 学習Ⅱ（健康安全プログラム）
- 20:30 ホーム・ルーム 連絡会議
- 22:00

- 6:00 起床
- 7:00 朝のつどい 清掃
- 8:00 朝食
- 9:00 先見
- 9:30 ワーク・ショップ

トレセンに参加した感想を寄せてもらいました！

参加した小学校教員

トレセンは子どもたちの自主性を育むいい機会

集団生活での「なすことをもって学ぶ」体験は、子どもたちが自主性を身につけるいい機会だと思っています。ずっと同じ会場で開催していますが、コロナ流行後は食事の提供業者がいなくなり、食事がすべてお弁当になったことでV・S（ボランタリー・サービス）活動の内容が変わるなど、以前と全く同じ開催は難しい状況です。また、学校訪問による参加依頼が進まず、例年より参加人数が減ってしまいました。しかしながら、人数が少ないことで子どもたち一人ひとりが自主性を発揮する機会がさらに増えたとも感じています。

子どもの自主性に任せる「待つ指導」に、なじみがなく、予定していた通りになかなか進まず焦ってしまう先生も多いのではないかと思います。ホーム・ルームの序盤に子どもたちに情報の「種まき」をしっかり行い、運営中は子どもたちの自由な発想に任せることを心がけています。今回は、自分が所属する学校からスタッフとして若手の教員を連れて行きました。トレセンならではの空気をぜひ感じ、学校の指導に活かしてほしいと考えています。

トレーニング・センター in 香川県

2日目のメインのプログラムはフィールドワーク。これまで学んだ知識と技術、培ってきたチームワークを活かし、個人個人がリーダーシップを発揮しながら、ホーム・ルームで一致団結して課題に挑戦しました。
子どもたちは、道順のサインを探して各関所を目指し、関所ごとに出題される防災や心肺蘇生などのクイズに回答しながら、ホーム・ルームメンバーで力を合わせてゴールを目指しました。

トレセンでは自主性、自発性ある態度を育成することが重要視されています。
掃除や食事はもちろん、朝のつどいなどのイベントも子どもたちによるV・S（ボランタリー・サービス）活動によって運営され、24時間、生活のすべてが学びの場となっています。
お互いが快適な生活を送れるよう、参加者は自分の意志で活動しました。

DAY2

- 12:00 昼食
- 13:00 V·S
- 14:00 フィールド·ワーク
- 16:30 夕べのつどい
- 17:00 夕食
- 18:00 ホーム·ルーム
- 19:30 ホーム·ルーム連絡会議
- 20:00 フィールド·ワーク講評
- 22:00

DAY3

- 6:00 起床
- 7:00 朝のつどい 清掃
- 8:00 朝食
- 10:00 ワーク·ショップ発表 3日間の振返り
- 11:00
- 12:00 昼食
- 13:00 閉会式

中学1年生

普段リーダーにはならないタイプですが、友だちに誘われて参加しました。
トレセンに参加する人は積極的に発表したり、率先して動いたりするなど、考え方が似た人が多いな、と感じました。
一番の思い出は、部屋で友だちといろんなことを話したことで、とっても楽しかったです。
ここで友だちになった人たちが面白くて、最終日には離れがたくなり、家に帰りたい気持ちと、まだここにいたい気持ちが半々になりました。

高校3年生

同じ高校からの参加者もいたので、ホーム・ルームのグループは同じと思っていましたが、実際はそうではなく、しかも小中学生もいたので初日はとても緊張しました。ただ、みんな学年が違っても話しかけたり、周りを見ながら自分の意見を言えたりする人が多く印象的でした。
ワーク·ショップでのテーマは「学校での悪口」。悪口をなくすのは難しいけれど、周囲の声掛けや対応で、悪口で傷つく人を減らせることに気づき、それを劇にして発表しました。最初にホーム・ルームでたてた目標のとおり、みんな仲良く、たくさん笑って過ごせてよかったです。

各都道府県支部連絡先はこちらから

今年の夏休みも全国各地でトレセンの開催を予定しています。
各地の開催予定や児童・生徒・スタッフとしての教員の参加については各都道府県支部までお問合せください。

5年ぶりに対面で開催！

令和5年度青少年赤十字国際交流事業

青少年赤十字国際交流集会
JRC/RCY International Meeting, Tokyo 2023

令和5年11月17日～26日、5年ぶりに対面で「令和5年度青少年赤十字国際交流事業」が開催されました。ここでは、11月23日～26日にオリンピック記念青少年総合センターにおいて、日本メンバーおよび9の国と地域の海外メンバーが参加して行われた「青少年赤十字国際交流集会 “JRC/RCY International Meeting, Tokyo 2023”」の様子をご紹介します。

国内外の青少年赤十字メンバーが交流を深め、青少年赤十字の実践目標の一つである「国際理解・親善」を促進することを目的として行われる、青少年赤十字国際交流事業。今年度は、大テーマを「持続可能な未来に向けた青少年赤十字活動」、小テーマを「平和教育」「気候変動」とし開催されました。

国際交流集会初日はホーム・ルーム（HR）と呼ばれる8つのグループに分かれての仲間づくりからスタート。

2日目はフィールドワークでHRの親睦を深めたあと、三井グループが行う「サス学」ワークショップ、青少年赤十字活動紹介、赤十字インプットタイムから企業・同世代・赤十字がテーマに対して持っている想いや課題意識、取り組んでいる活動を学びました。さらにHRでグループディスカッションを行い、その日の学びや気づきから、自分の地域の課題に対して、どのようなアクションを起こせるかを考えました。

3日目にはこれまで討議した内容をHRごとに発表。これからの活動をみんなで共有し、世界中の仲間と一緒に社会課題の解決に取り組んでいく想いを新たにしました。

人道の考えのもと自分が今できることを真剣に考えた4日間。参加した若者には、今後、各地域でリーダーシップを発揮して行動していくことが期待されています。

Report

グループディスカッション・発表

気候変動と平和教育のテーマごとのグループに分かれ、意見交換をしました。他者の意見に耳を傾け、それぞれの考え方の違いを実感した上で自分の意見を発表。講義などで得た情報を踏まえて議論を重ね、自分の国や地域、学校等で取り組める活動をまとめ、最終日には演技などを交えながらプレゼンテーションしました。

Voice 参加者の声

指導スタッフ

平和へつながる鍵となる

十文字高等学校教諭
猪又由加先生

自国や地域の課題・問題について考え、どのような行動を起こせるのかを考えてもらいました。一番印象に残ったのは、HRごとの発表です。言語も文化も違う子どもたちが、同じ目標に向かって議論を交わし「学ぶことの大切さ」を軸としたアクションプランを作成。そして、発表まで漕ぎつけたのには感動しました。
個性豊かな子どもたちが、お互いの長所を共鳴しながら一つにまとまって行く過程は、本当に素晴らしかったです。このことは、きっと平和へつながる鍵となると感じています。

海外メンバー

新たな視点を得ることができました

インドネシア赤十字社
Giovanni Yusufさん

参加して驚いたのは、皆が若者の行動や声がもっと聞かれるべきと思っていること、そして、内容は違っても各々が人類のための共通の目標を持っていることでした。期待していたとおり、プログラムの参加は、自国が抱える問題に対する新たな視点を与えてくれました。
今後は、このプログラムを通じて他国から学んだことを活かして自国の問題に取り組み、ゆくゆくは世界中の若者でボランティアのネットワークをつくり、協力して気候変動に対する行動を起こしたいと思います。

フィールドワーク

青少年赤十字ではフィールドワークを現地調査ではなく、自分の知識を使い、仲間と親睦を深め、リーダシップを養う活動として実施しています。日本・海外メンバーを含めた８グループに分かれ、紙飛行機飛ばしやボールリレー、お箸を使った豆移しゲームなどにお互いに協力しながら挑戦。さまざまなゲームを通じて親交を深め課題に取り組みました。

サス学

三井物産の「サス学」アカデミープログラムを赤十字の国際交流のためにアレンジして開催。社会課題をジブンゴトと捉え、サステナブルな未来をつくるための知恵や価値観を学びました。三井グループ8社の事業活動から企業の想いを知り、多角的な視点を学んで自らの行動変容を促すことを目指し、終了後は、活動に活かすアイデアを共有しました。

活動紹介

海外メンバーが姉妹社（国・地域）ごとのブースを設け、それぞれの青少年赤十字の活動を写真やチラシを使って相互に紹介し合いました。国や文化背景は異なっても、共通の目的を持った赤十字の活動によってつながっていることを理解し、新たに学んだ内容を自分たちの地域での活動に反映させる機会となりました。

文化交流

文化交流では、日本を含む10の国と地域の青少年赤十字メンバーが、各国の民族衣装に身を包み自国の歌やダンスを披露。会場は拍手喝采で盛り上がりました。

日本メンバー

視野を世界に広げることができた

神奈川県支部
佐々木來那さん

会期中、各々の環境問題を共有して環境破壊が起こる根本原因について意見を交わし、議論しました。海外メンバーと言語の壁を越えて互いの文化や政治的問題、将来の展望などを共有し、自分の視野を世界に広げることができたと感じています。英語で積極的に話しかけ、友だちをつくれたことも大きな成長でした。
海外メンバーは、自分の将来と環境問題を真剣に考えています。日本でももっと真剣に気候変動を考える必要性を感じるので、自身の活動を発信し続けようと思いました。

Information

国際交流事業のご案内

「青少年赤十字国際交流事業」は隔年で開催しており、次回は2025年に実施いたします。国際交流事業では国内にいながらも、世界の姉妹社のメンバーと交流することができ、赤十字の世界性、多様性と人道の価値を感じることができます。青少年赤十字に加盟いただいている学校の高校生なら、どなたでも応募可能です。
ご応募をお待ちしております。

詳細は、お近くの日本赤十字社各都道府県支部青少年赤十字担当者までお問い合わせください。

青少年赤十字

教え子 × 指導者 対談

子どもたちだけでなく教師も成長できる青少年赤十字での学び

熊本県の桐原孝太先生は、中学時代に生徒会の中で青少年赤十字活動を経験したことで、自身も母校の教師となり青少年赤十字指導者となったという経歴の持ち主。
今回は当時の恩師でもあり、現役指導者でもある飯田友紀先生とともに、元教え子と指導者というそれぞれの立場から、青少年赤十字活動のメリットや魅力について語っていただきました。

――教師となり、青少年赤十字指導者となったきっかけや動機を教えてください。

桐原先生：もともと好奇心が旺盛で、色々な職業に興味がありました。でも、中学2年生の時に飯田先生の指導のもと生徒会や青少年赤十字活動に携わったことで、教師が一番面白くやりがいがあると感じ、教師になることを決意しました。飯田先生、そして青少年赤十字活動の影響は非常に大きかったと言えます。

飯田先生：教師というのは正直大変な仕事です。なる人も少ない中で、選んでくれたのは素直に嬉しいと感じています。中学時代の桐原先生は何に対しても一生懸命で、学級委員に立候補するなど何事にも率先して取り組んでいました。街頭募金などにも励み、生徒会以外の子どもたちも巻き込みながら常に楽しく活動することを心がけ、活動終了時には達成感から号泣するような、とても熱意のある生徒でした。

桐原先生：街頭募金活動では、呼びかければ集まると思っていたのに素通りされることも多くて、心が折れそうになる時もありました。

飯田先生：あの時は、街頭募金は日赤だからこそできる貴重な体験だし、募金が集まらない残念な気持ちを味わうことも成長の一つなのだと教えました。

桐原先生：当時の飯田先生は本当に厳しくて、でも厳しい中にもたまに愛があり、それが自分を成長させてくれたのだと本当に感謝しています。

――青少年赤十字活動を通じて得られるメリットとは、どのようなものだと思われますか？

飯田先生：活動の中で大切にしているのは「気づき、考え、実行する」という青少年赤十字の態度目標です。教

トレセンは教師にとっても貴重な学びの場

桐原孝太先生

大津町立大津中学校　社会科講師
令和５年度リーダーシップ・トレーニング・センター引率者
青少年赤十字指導歴1年

師が先に動くのではなく、まずはヒントを与えて子どもたちが動けるよう指導していて、特に生徒会の子どもたちには、先を見通す「先見」を大事にして動きなさいと言っています。
桐原先生も、学級委員長に立候補して生徒会活動を始めたことで、自らが動いて周りをよく見るようになり、1年で大きく成長したのを覚えています。

桐原先生：とにかく飯田先生に叱られないよう、生徒同士アイコンタクトで意思疎通をしたりして先に先に動こうと、それは必死でしたからね（笑）。
当時は飯田先生からのヒントに導かれ「気づき、考え、実行する」が染みついていったという感じでしたが、今ではすっかり身につき、教師になってからも生徒会や青少年赤十字活動をはじめ、学校行事や学級経営などあらゆる場面で活かされているのを感じます。

飯田先生：成長の場ということでは、毎年夏に行われるリーダーシップ・トレーニング・センター（トレセン）※がとても有意義だと思っています。※P11～12参照
参加した子どもたちがリーダーを目指し、周りを見回して色々なニーズに気づき、できることを自主的に探しながら視野を大きく広げていく姿を毎年目の当たりにしています。

桐原先生：昨年のトレセンには、生徒の自己肯定感を高め、リーダーシップを伸ばしたいとの思いから、私も3人の生徒を連れ引率者として参加したのですが、そこで参考になったのが飯田先生の徹底した「待ちの姿勢」です。自分は昔からの癖で気づくのが早く、ついつい子どもたちより先に動いてしまうので、我慢強く待つ姿勢を見習いたいと思いました。
トレセンは、子どもたちの自己肯定感やリーダーシップを育てるだけではなく、教師もリーダー育成の知識を学べる貴重な場でもあります。私ももっともっと多くの方たちに活用していただきたいと思いますね。

――最後に、改めて青少年赤十字活動の魅力をお聞かせください。
飯田先生：赤十字という大きな後ろ盾を得て、赤十字の一員という意識を持って活動に取り組むことは、とても意義のあることだと思っています。

青少年赤十字は、これをしなければならない、といった押しつけは一切なく、学校の取り組みで必要なところだけ取り入れていただければいいという柔軟なものです。
青少年赤十字活動への参加はハードルが高いと思っている方もいるかと思いますが、決して難しいものではありません。また、トレセンは多くのことを楽しく学べる場なので、多くの方々に参加していただければいいなと思っています。

桐原先生：自分も大事ですが、相手のために何か行動する、相手を喜ばせるという良い意味での自己犠牲も大切だと考えています。青少年赤十字の活動では、人を思いやることで自分も周りも幸せになることを学ぶことができるので、それがゆくゆくは大きな社会貢献につながっていくと感じています。トレセンをはじめ青少年赤十字活動での学びは、子どもたちだけでなく教師の成長にもつながるので、「参加しないともったいない」というのが正直な気持ちです。ぜひ一度、トレセンなどを体験していただき、青少年赤十字活動のメリットや魅力を多くの教師の方々に知っていただきたいですね。

子どもたちが自ら動けるよう
まずはヒントを与えて

飯田友紀先生

菊池市立菊池南中学校　英語教諭
熊本県青少年赤十字指導者協議会・中学校部会理事
青少年赤十字指導歴20年

児童・生徒への指導に活用できる教材を紹介！

教育現場で使える 青少年赤十字 教材・資料

青少年赤十字では、児童・生徒への指導の際に活用できるさまざまな教材を作成しています。
教育現場で活用していただきたい教材や資料を青少年赤十字担当職員が紹介します。
ぜひ、普段の学校教育活動にお役立てください。

青少年赤十字担当職員がオススメの教材を紹介

齋藤さん

三輪さん

藤井さん

全 般

せきじゅうじって、なんだろう？

アンリー・デュナンにより始まった赤十字について、読みやすく紹介した入門書

せきじゅうじって、なんだろう？ 53円

小学校低学年以下を対象とした、赤十字の起源や活動、目標などを、わかりやすく紹介した入門書です！

全 般

青少年赤十字ハンドブック

(小・中・高校生)

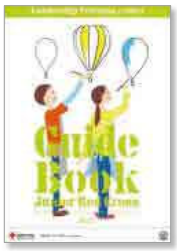
青少年赤十字メンバーである児童・生徒向けの活動ガイドブックシリーズ

- 小学生用　136円
- 中学生用　178円
- 高校生用　252円

JRCメンバーの必読書です。歴史や青少年赤十字で大切にしていることへの理解が深まります。どこから活動をはじめたらよいか？と迷った時に読んでいただくと、具体的な活動がわかります。
ガイドを読んで気づき、考えたら、すぐ実行してみてください。

トレセン

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター・ガイドブック



11～12ページで紹介したトレセンを効果的に実施するためのガイドブックシリーズ

- 指導者用（B5判 36ページ）　105円
- 小学生用（B5判 24ページ）　53円
- 中学生用（B5判 44ページ）　105円
- 高校生用（B5判 44ページ）　84円

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターの全てが詰まった1冊です。研修前や研修中にもご活用いただけます。

全 般

青少年赤十字指導者手引き

青少年赤十字活動に関わる先生に向けて、活動の趣旨や運営の仕方について理解を深めるための手引き

青少年赤十字指導者手引き 262円

迷った時にはまず「青少年赤十字指導者手引き」を確認！赤十字や青少年赤十字の要素が詰まった1冊です。

国際理解・親善

青少年赤十字国際交流ガイドブック

青少年赤十字代表団として外国を訪問する時や、海外の青少年赤十字メンバーを紹介する時のガイドブック

青少年赤十字国際交流ガイドブック 209円

ガイドブックには青少年赤十字の重要な知識や資料がまとめてあり、日々のJRC活動や研修でメンバー向けに活用いただけます。赤十字の基本やジュネーブ条約、研修で大切なグループ・ワークに関する知識等が学べます。

健康・安全

青少年赤十字防災教育プログラム『まもるいのち　ひろめるぼうさい』

(小・中・高校生)

自然災害に向き合ってきた日赤と現場の教員が提案する「授業ですぐ使える防災教材」をまとめた一冊　※非売品

児童・生徒が主体的に防災に取り組めるよう工夫された教材。災害毎に選択できる映像教材やテキスト資料を授業でご活用ください！

健康・安全

ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！教材

幼稚園・保育所の子どもたちと、災害時の危険（場所・行動）について学び、自分の身を守る基礎的な知識や判断力を身に付けてもらうための教材

幼稚園、保育所の子どもたちが自分のいのちを守る防災の知識を学べる教材です。かわいい絵柄で、クラスでも、個人でも、おうちでご家族ともご活用いただけます。

全 般

人道的価値観をはぐくむ　国際人道法学習プログラム

誰もが人間らしく生きるために

人間の尊厳を守り、紛争のもたらす不必要な犠牲や損害を防止することを目的とした「国際人道法」を学ぶための教材

※非売品

単元ごとに展開案や例題、解説などがわかりやすく書かれていますのでそのまま授業などで使うことができます。

全 般

青少年赤十字のひみつ

子どもたちにも理解しやすいよう、青少年赤十字や日赤について漫画でまとめた冊子

※非売品

青少年赤十字創設100周年記念書籍です。赤十字、青少年赤十字とは、青少年赤十字はどんな活動をしているかを漫画でわかりやすく学んでいただけます。全国の小学校や図書館、幼稚園・保育所・中学校等の加盟校に配付しているほか、ホームページ等で電子版をご覧いただけます。

健康・安全

WEB CROSS　電子講習室

救急法や水上安全法などを予習・復習できるeラーニング

日本赤十字社では、緊急時や災害時に人命を救う方法や、健康で安全に暮らすための知識と技術である救急法等の普及事業を行っています。このサイトではオンラインで検定形式とクイズ形式とポイントの解説で楽しく知識を深めていただくことができます。

これらの教材は日本赤十字社のホームページからダウンロード、もしくは日赤サービス（nisseki-service.com）を通じてお買い求めいただけます。※ 一部商品除く。

ホームページでは他にもさまざまな資料を公開しています。▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶

2005年の愛・地球博の感動から20年

2025年、赤十字は再び万博に出展します

©Expo 2025

世界中の国や国際機関が集い、未来社会の展望の共有と地球規模の課題解決を目指す国際博覧会（万博）。赤十字は1863年の誕生から間もない1867年のパリ万博や1873年のウィーン万博に出展し、世界への人道理念の発信に努めてきました。日本赤十字社の誕生はまさに万博がきっかけで、佐賀藩から派遣された佐野常民が万博で赤十字に出会い、感銘を受けたことが始まりでした。日本赤十字社は「国際赤十字・赤新月運動」パビリオンの企画・運営を担う事務局として参加します。

今回の出展スローガンは、「人間を救うのは、人間だ。～ The Power of Humanity ～」。コンセプトは、「わたしの“できる”は、誰かのためになる」。青少年赤十字の態度目標でもある「気づき」「考え」「実行する」の精神のもと、来場者が具体的な人道支援活動の一歩を踏み出す展示内容を企画しています。ご期待ください！

読者アンケートにご協力ください！

URLもしくは二次元コードよりアンケートページにアクセスできますので、ぜひご協力ください。**令和6年6月30日**までにアンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様に**赤十字オリジナルグッズ**をプレゼントします。

スマートフォンはこちらから

●URL

https://forms.office.com/r/KRZD7QMDu6

青少年赤十字指導情報 No.172

Junior Red Cross Information 2024

インスタントラーメン
あるとホッ、知るとホッ。
一般社団法人 日本即席食品工業協会

※この指導情報は日本即席食品工業協会のご寄付で作成しました。

日本赤十字社　東京都港区芝大門1丁目1番3号

TEL. 03-3437-7083　FAX. 03-3432-5507　https://www.jrc.or.jp/